

ヒラメ釣りの楽しみ方

平成 30 年 7 月 17 日

小柳正和

釣りの楽しさも人それぞれですが、釣り方も千差万別です。今回はイワシの泳がせ釣りという釣法で楽しもうと思っています。考え方は色々ありますが、私の経験をもとに、楽しみ方を説明します。

イワシの泳がせ釣りとは？

名前の通り、活きたイワシを針に付け、そのイワシを食べに来たヒラメを釣ってしまう釣法です。サーフ(砂浜)からヒラメを狙う場合は、ルアーを使いますが、船からヒラメを狙う場合は、関東ではこの釣り方が最も有名です。

服装について

服装は気候によって変わってきますが、基本は変わりません。何を基準にするかと言うと「安全」「安心」か？ということです。これだけは用意しておきたいものは以下のとおりです。

帽子、サングラス(偏光レンズ)、手袋、合羽、長靴、ライフジャケット

真夏の海は、紫外線がかなり強いです。日焼け止め程度ではカバーできませんので、薄手の長袖を着ることをお勧めします。

道具について

最低限釣りに必要な道具は、竿、リール、仕掛け、餌です。ヒラメは”向こう合わせ”と言って、魚を掛ける必要がありません。代わりにヒラメが針に掛かるまで、じっと待つ必要があります。そのため、あまり硬い竿はヒラメ釣りには向いていません。また、ヒラメは底にいる魚なので、仕掛けも底まで落とします。そのためオモリも 40 号～60 号と、かなり重たいオモリを使うので、その重さに十分耐える竿である必要があります。リールも底が解りやすいように同軸リールを使います。一つテンヤの時とは全く違います。

釣り言葉で、ヒラメを「座布団」と呼ぶことがあります。座布団を海底から引っ張り上げることを想像してみてください。とても重たいと思います。ヒラメも上げるときはかなり重たいです。そのため、糸も太目の糸を使います。それでも最近は糸や道具の品質が向上したおかげで昔の道具と比べると軽く、細い糸を使うようになってきました。このような道具のことを「ライトタックル」呼びます。

この様に、一つテンヤの時とは全く違う道具を用意しなければなりません。

ライトタックルの場合

竿 : 2m~2.4m の 7:3 調子または、6:4 調子

リール : 小型同軸リール

道糸 : PE1.5 号 100m

リーダー : 4~6 号 3m

仕掛け : ヒラメ専用仕掛け

オモリ : 40 号~60 号

ロッドキーパー(竿を船べりに固定する道具です)

竿は汎用性のある竿で十分ですが、ライトタックルのヒラメ専用竿だとイワシが逃げ惑う感じや、ヒラメがイワシを噛った感じが伝わってきますのでとても面白いです。

ちなみに私はというと・・・

竿 : シマノ バイオインパクト X ライトヒラメ 225

リール : シマノ グラップラー プレミアム 150XG

道糸 : PE1.5 号 300m

リーダー : 6 号 3m

仕掛け : ヒラメ専用仕掛けを自作

オモリ : 40 号~60 号

ロッドキーパー : ライトホルダー 90CH

です。道具を購入してみようと思う方は参考にしてください。道具の値段は一式で 15,000 円~くらいだと思ってください。上を見るとキリがありませんので、家族の目を気にしながら検討しましょう。

初めての方は船宿に貸竿がありますので、まずは貸竿で始めることをオススメします。

その他用意しておきたいもの

クーラーボックス

60cm くらいが理想ですが、ある物で大丈夫です。帰る時に船宿で氷を入れてくれるのでそんなに高級品はいりません。船宿によっては 35L 以上は持ち込み禁止のところもありますので注意が必要です。

先細ラジオペンチ

魚から針を取るときに使います。

ハサミ

糸を切るときに使います。

タオル 3 枚以上

手を拭いたり、汗を拭いたり、魚をおさえたり。

酔い止め薬

気休め程度しかありませんが・・・おすすめは「アネロン」です。

飲み物

最低 1.5L は用意しておきましょう。

食べ物(おにぎり・パンなど)

6 時間位海上にいますのでお腹も空きます。できれば片手で食べられるものが良いです。
特に大物を釣ったあとはお腹ペコペコですよ。

仕掛けについて

仕掛けは大きく分けると、ノーマルとライト、シングルフックとトリプルフックと、4 種類あります。ノーマルとライトは使う道具で決まります。イワシに針を掛ける時、1 つの針はイワシの口(または鼻)に、もう一つは背びれに付けます。その針がトリプルとシングルと二種類あります。それぞれ長短がありますが、お勧めはトリプルフックです。

ヒラメは砂地を攻めることが多いですが、底を狙うため、稀に根掛かりすることもありますので、4 セットぐらい準備しておくといいでしょう。ただし貸竿の場合は、その貸竿がノーマルかライトか分かりませんので、当日船宿で購入するのが良いです。

用意するオモリは？

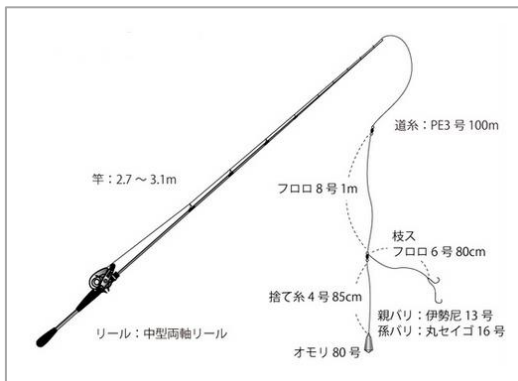
ノーマルとライトで使うオモリが変わります。ノーマルは、道糸が太いので、その分潮に流させやすくなります。そのため、重めのオモリになります。逆にライトは軽めのオモリになります。

ノーマル：通常は 80 号、潮が早い時は 100 号

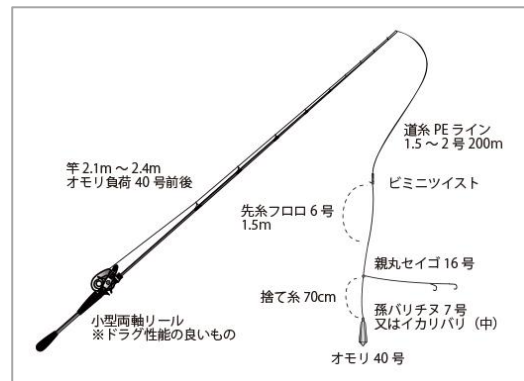
ライト：通常は 40 号、潮が早い時は 60 号

仕掛けと同様、根掛かりする場合がありますので、各号数を 2～3 個ずつ用意しましょう。

ノーマルタックル



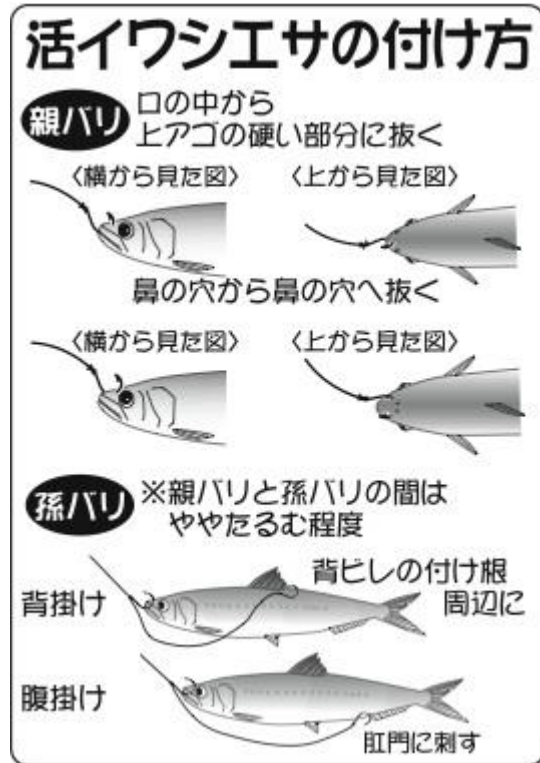
ライトタックル



活きイワシ(餌)の付け方

餌が活きているため、はじめての方は少し苦戦するかもしれません。手順は以下の通り。

1. バケツからイワシを片手で掴みます。
このとき、イワシの頭は手前側にし、親指と人差し指の間に顔を出すくらいの位置が良いです。
2. 暴れないようにそっと素早くイワシ全体を掴みます。強く掴むと圧迫されてイワシが弱ってしまいます。豆腐を崩さないで掴むイメージです。時間がかかるとイワシが暴れて鱗が取れて弱ってしまいます。
3. 親ばりを口の中から上アゴの硬い部分に刺します。または、鼻の穴から鼻の穴に抜きます。お勧めは口の中ですが、ちょっと難しいかもしれません。
4. 孫ばりを背びれの後ろあたりに刺して抜きます。肛門あたりでも良いですが、ヒラメは下からイワシを狙っているので、ヒラメから見えないように背掛けのほうが良いという方が多いです。



仕掛けの投入の仕方

活きイワシを投入するので、心がけることは「優しく」です。

まず、竿をロッドキーパーに置きます。次にオモリを片手に、枝スをも一方の手で持ち、オモリ→イワシの順番で海面に下ろします。このときにすぐに海底まで落とさないようにしましょう。海面で、「糸が絡んでいないか」「イワシが元気に泳いでいるか」を確認したあとに、サミング(リールの糸に親指を載せて軽く押さえる)しながらゆっくりと海底まで仕掛けを落とします。サミングしないとバックラッシュ(スプールが回りすぎ余分な糸が出て絡むこと)してしまいます。

オモリが海底についたら、糸ふけを取って、50cmくらいオモリ海底から上げます。ヒラメ釣りの場合、オモリが重たいので、海底に付く感じは比較的簡単にわかります。

待っているあいだの注意点

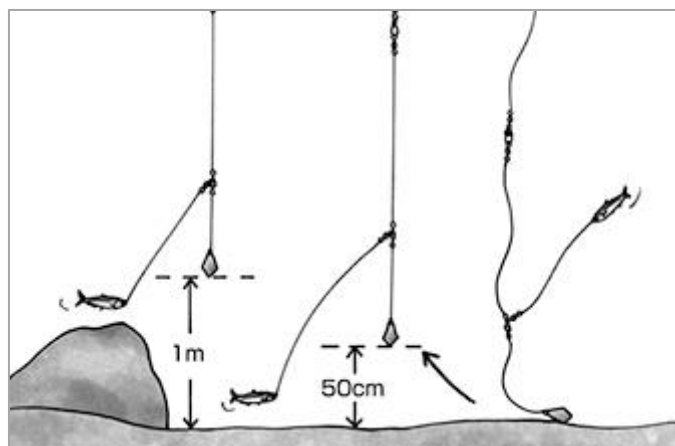
ヒラメ釣りは、難しい釣りではありませんが、いくつか注意することがあります。

1. オモリを引きずらない
オモリを引きずると根掛かりしてしまいます。オモリを引きずるということは、イワ

シもほぼ海底にいることとなります。ヒラメは海底から上を見えています。なので、少し上の方がヒラメもイワシを見つけやすくなります。

2. 底を確認する

海底の起伏変化で、いつの間にか底から **3m** も上にイワシがいるということもあつたりします。なので、適度に竿先を下にして底を確認してください。竿先を下にしてもオモリが底につかない場合は、深くなっているか、潮の流れで仕掛けが浮いてしまっているかです。このときに、無闇に糸を出し続けるとオマツリの原因になりますので **1~2m** を出しても底につかないようなら、一度海面まで回収してイワシが元気なのを確認し、再度底まで落としてください。



アタリがあつたら

とにかく 早合わせ は絶対に 駄目 です。釣れるまでの流れとしては、

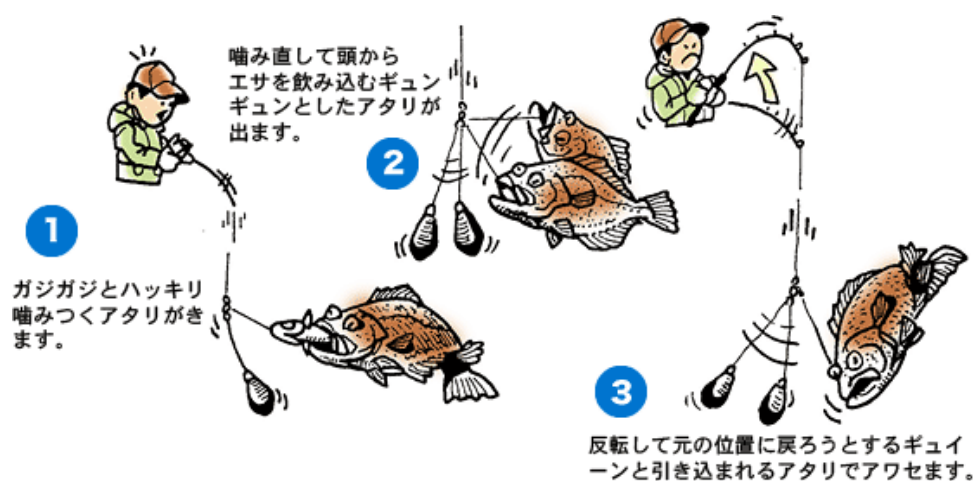
1. ヒラメがイワシに近づいてくると、イワシが逃げようとして暴れだし、竿先が少しだけプルプルと震えだします。このときはまだヒラメは餌を食べていません。そのままじっと待ちます。
2. そのうちに、ギューンと竿が何度か下に押されます。ヒラメがイワシに攻撃したときです。ヒラメは一度にイワシを捕食しません。何度か攻撃して、イワシを弱らせてから、ゆっくり捕食します。ここでもじっと待ちます。
3. ギューンという回数が多くなってきて、ギューンギューンとなり、竿が弧を描くように曲がったときが、アワせる時です。ヨイッショーという感じで竿を持ち上げましょう。あとはゆっくり、しっかりとテンションを掛けたままリールを巻きます。

最初のギューンからギューンギューンまで **20秒** から **1分** 位かかると思ってください。この瞬間が一番ハラハラドキドキします。また、ギューンギューンがいつまで経っても来ないときがあります。残念ですが、逃げられたときです。ヒラメも命がけで

すので、イワシが急に上がったり、噛ったときに針があたったりすると捕食を諦めて逃げていってしまうようです。なので、アタリがあったときはすぐに合わせず、我慢することがとても大切です。

アタリがあったのに逃げられてしまったら、一度回収してイワシを見てみましょう。イワシに傷があればそれはヒラメの噛った跡です。新しいイワシに交換しましょう。

もし、傷が無いならそれはヒラメではなく、オモリが海底を転がっているときの振動だったり、根掛かりだったりの場合が多いです。



潮が早いとき

魚は潮が流れていないときは休憩タイム、潮が流れている時に活性すると言われています。しかし、潮が早いとオモリが底から徐々に浮いてしまったりします。そんな場合は面倒でも、一度回収して再度投入しましょう。この一手間が釣果として現れます。

オマツリしたら

自分の仕掛けと隣の人の仕掛けが絡まることを「オマツリ」といいます。オマツリの原因として、潮の流れが速いせいで仕掛けが流されたり、魚が掛かったとき、魚が横方向に走ってしまう、などがあります。ヒラメ釣りの場合特に多いのが、底を取るために糸をたくさん出してしまうケースです。もしオマツリしたらすぐに船長を呼び、船長の支持に従ってください。釣り方に注意していればあまりオマツリはしませんが、みんな釣りたい一心なので、オマツリしても寛容な気持ちで対応しましょう。

もし根掛かりしたら？

無理に引っ張ってはいけません。最悪竿が折れてしまいます。まずは、少しだけ糸を緩めて上下左右前後に動かしてみましょう。それでも外れないときは、リールの糸の部分をし

っかり親指で抑えて、竿と糸をできるだけ一直線にして手前に引っ張ります。オモリを付けている箇所か、道糸とリーダーの接続箇所で切れます。

魚が釣れたら

魚が釣れたら早めに「船長～」と大きな声で呼びましょう。周りの人が釣れたときも呼んであげましょう。魚が水面に上がってきた時が一番バレやすいです。たとえ小さな魚でも無理せず船長に網ですくってもらいましょう。船長が網から魚を出したら、まず、ペンチを使って魚から針を外し、水の入ったバケツに魚を入れます。この時、指で針を外すことは絶対にしないでください。ヒラメは歯が鋭く顎の力も強いので噛まれると怪我をします。魚が暴れるようならタオルで軽く魚を押さえましょう。

釣果を上げるために

船長は楽しんでもらうために魚のいるポイントを必死で探してくれます。それでもその日の潮の流れや感が当たらずに良い釣果が出ない日もあります。たとえ釣れなくても船長を責めないようにしましょう。釣果を上げるために最も大切なことは・・・

魚の居そうな場所に餌を見せつける時間を少しでも長くする。です。休んでばかりいないで、手返し良く釣りをし続けること。これが一番の方法だと思っています。

時期にもよりますが、夏は水温が高いのでヒラメの活性は高いと言われていしますので、運が良ければ5枚も夢ではありません。が・・・オデコ(全く釣れない)の時も良くあります。技術もありますが、潮の流れや運も大きく関わっています。オデコになっても決して不貞腐れることの無いようにしましょう。

安全で楽しい釣りをするために

最も大切なことは「船長の指示に絶対従う」ということです。これを守っていればほぼ安全で楽しい釣りができます。

参考サイト

- Youtube #146 前アタリで大興奮！ライトタックルで夏ヒラメを楽しむ
<https://www.youtube.com/watch?v=QxfpQudiMKQ>
- ダイワ 23.ヒラメを生きイワシを使った胴付き仕掛けの泳がせ釣りで釣る
<http://daiwa.globeride.jp/column/hajimete/contents/23/index.html>
- つり丸 釣り場拡大で片貝沖のヒラメがますますおもしろい！【外房・片貝沖】
<https://tsurimaru.jp/articles/278>

以上